

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立大和田小学校

令和 7 年 4 月 1 8 日

1 学校運営の中期目標

いのちを大切にし、豊かなグローバル社会を築いていくことができる子どもを育てる

【 設定理由 】

- 自他ともにいのちを大切にする態度を育てることが、平和で豊かな社会をつくる上で最も重要となる。
- 大きな社会変化(国際化、情報化、技術革新等)に対応し、自らの力で他者と協働してよりよいグローバル社会を築いていく力を育てていくことが必要になっていく。

学校経営の重点

<p>【安全・安心な教育の推進】</p>	<p>安全・安心な教育環境の実現いのちを最優先した教育を根幹とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童の安全・安心においての問題について、関係機関との早期の連携を図る。(こども相談センター、西淀川区の教育支援組織、地域の民生委員、SSW 事業等) ● 学校組織として、いじめや問題行動を生まない学校づくりをすすめる。(道徳や学級活動、日常生活における児童理解、指導。S.S.W.事業、関係諸機関、行政機関と協働したケース会議の運営) ● 学校保健委員会を開催し、健康に対する意識の高揚をすすめる。 ● 給食の安全な運用を行い、健全な食生活の確立に向けて食育を進める。 ● 地域と協働した防災・減災教育の実施 <p>豊かな心の育成学校へ行くのが楽しいと思う児童を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心して学校生活を送れる学級経営を目指す。 ● 道徳教育の推進をすすめていく。 ● 人権を尊重する教育を推進する。 ● たてわりやクラブ活動など異学年交流を進めていく。
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p>	<p>誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の基本となる学習規律・生活規律の確立をはかる。 ● 学力向上をはかる。(わかりやすい授業の追及) 習熟度別授業・少人数授業の充実。読書活動の充実。 ● 教職員の指導力の向上をはかる。 ・全教員が、授業研究を伴う研究協議会を行い、授業力の向上をはかる。 ・メンターを活用した若手教員の育成をすすめる。 ・専門的な講師を招聘や先進的な教育実践の視察をすすめる。 ● 主体的・対話的で深い学びの推進を行う。 ● 外国語(英語)教育の推進。 フォニックスの継続、C・Net の活用 ● 読書活動の推進をすすめる。 学校図書館の運営へのボランティア参画、図書室・学級文庫の充実。 <p>健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動に取り組むことが好きな児童の育成をすすめる。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 体力の向上をはかる。
【学びを支える教育環境の充実】	<div>ICT 機器の活用</div> <ul style="list-style-type: none"> ● ICT を活用して学力・体力の向上をはかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働学習や個別学習などの充実をめざし、授業の質の向上をはかる。 ・ 児童が家庭で活用ができる力を育てる。 <div>教職員の働き方改革を推進する</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の心身の健康を大切にし、児童と向き合う時間や環境の整備をすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間勤務のない体制の構築をはかる。 ・ 専科教員や S S S 等の活用を進める。 <div>家庭・地域等と連携・協働した教育の推進</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 読書活動の推進をすすめる。 <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の運営への学校司書参画、図書室・学級文庫の充実。 ● 学校協議会の活用を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ P T A や地域の人材の活用を進める。

2 中期目標

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上とする。
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を、毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度より減少させる。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を75%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「学校へ行くことが楽しいと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、大阪市平均に向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率3割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も令和3年度より3ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率7割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も令和3年度より3ポイント増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を令和3年度より3%増加させる。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である（反復横跳びと20mシャトルラン）の平均の記録を、令和3年度より3ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- デジタル教材を活用した授業を週に3回以上実施する。
- 学習用端末を活用した校内での教育活動を週に3回以上実施する。
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上、5日以上所得する教職員の割合を80%以上とする。
- ゆとりの日を週に1回設定する。

令和 7 年度 3 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

I【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

1. 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
2. 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

II.【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小学校）

1. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
2. 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68%以上にする。

学校の年度目標

1. 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも 0.03 ポイント向上させる。

III.【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

1. 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 【本市独自調査】
2. 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。 【本市独自調査】

3 本年度の自己評価結果の総括

--

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

4 年度目標（令和7年度）

大阪市立大和田小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 3 中期目標の達成に向けた年度目標で決めた年度目標 1. 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 2. 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
1. 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して 取組内容① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ いじめなど配慮が必要な児童の問題解決について、各学級担任・生活指導部長・養護教諭・管理職が連携して問題事案に対応する。また、大和田小学校いじめ防止委員会を組織するなど、校内の組織を充分機能させながら外部機関とも連携して対応していく。 ・ 児童をいじめに向かわせない取り組みとして、「いじめ・いのちについて考える日」を設定し、校長講話や道徳の学習など全教職員でいじめを許さない見過ごさない集団作りをしていく。 ・ 学級活動を通して、児童がお互いを理解し尊重しあえる仲間づくりをする。 ・ SLN の相談機能を利用して、相談を言い出せない児童生徒の相談の糸口として積極的に活用し、早期発見・早期解決に努める。 ・	
指標 ・ 配慮や支援が必要な児童について、スクリーニングシートの活用や共通理解の場を年10回以上設ける。 ・ 「いじめ・いのちについて考える日」を各学期に1回以上設定する。	

2. 「不登校児童の在籍比率を前年度より減少」に対して

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- ・学級担任を中心に家庭訪問や電話連絡等を行い、児童や保護者とのつながりを保ち、信頼関係を築いていく。
- ・職員室登校や放課後の登校も促し教職員で連携しながら少しでも登校しやすくする。
- ・不登校または不登校傾向にある児童の資料を生活指導部会やスクリーニング会議で共有し、全教職員で個に応じた対応を取ることができるようにする。
- ・不登校児童が増えないようにするために、児童一人一人に寄り添った対応や声かけをする。
(前年度…23人)

指標

- ・配慮や支援の必要な児童について、スクリーニングシートの活用や共通理解の場を年10回以上設ける。
- ・不登校または不登校傾向にある児童については、実態に応じて家庭訪問を週1回以上行う。
- ・心の天気の入力を1日1回以上確認する。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

4 年度目標（令和 7 年度）

大阪市立大和田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 3 中期目標の達成に向けた年度目標で決めた年度目標 1. 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 2. 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 68%以上にする。 3. 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも 0.03 ポイント向上させる。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
1. 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して 取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・算数科を中心に授業研究に努め、児童の興味関心を高め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。 ・各種校内研修を計画的に行い、教職員の授業力向上を図る。	
指標 ・授業力向上に向け、全教員が年間 1 回以上の公開授業を行う。 ・メンター研修を含む校内研修を月に 1 回以上行い、	

2. 「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して

取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ・ 体育科の授業改善に取り組み、児童が体を動かすことの楽しさや心地よさを感じることができるようになる。
- ・ なわとび、かけ足などの強調週間を実施する。
- ・ 休み時間での活動を学級ごとに工夫し、自発的な運動の機会を増やす。

指標

- ・ 体育科の校内研修会を年間で 3 回以上、実施する。
- ・ 運動に関する強調週間を年間で 2 回以上、実施する。

3 「小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比…」について

取組内容

- ・ 清掃後の帯時間を活用し、「大和田ぐんぐんタイム」を設け、算数の基礎となる四則演算を中心とした学習に取り組み、基礎計算能力の定着を図る。

指標

- ・ 全学年、週 3 回以上「大和田ぐんぐんタイム」に取り組む。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

4 年度目標（令和 7 年度）

大阪市立大和田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 3 中期目標の達成に向けた年度目標で決めた年度目標 1. 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 2. 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
1. 「授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする」に対して 取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 <ul style="list-style-type: none">主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を進めるとともに、PC の機能をうまく使い、ICT を有効活用した授業を推進する。一人一台端末の使い方の指導を徹底し、児童が端末を使って学習内容を深められるように取り組んでいく。	
指標 <ul style="list-style-type: none">ICT を活用した授業を各学年週に 3 回以上取り組む。授業で ICT を効果的に活用できるよう年 3 回以上 ICT 活用研修に取り組む。	
2. 教員の勤務時間の上限に関する基準 1 の達成に対して 取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ul style="list-style-type: none">長時間勤務や休日の業務を減らし、教職員の健康管理を進める。専科や SSS などの学校支援スタッフの活用を推進していく。	
指標 <ul style="list-style-type: none">ゆとりの日や午後 6 時までに全教職員が退勤する日を週に 1 回以上設定する。	

